

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371001047
事業所名	グループホーム荒子の郷

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 町内会に加盟し、回覧板も廻ってきています。認知共用型指定通所介護事業を3年程前から開始、現在1名の在宅介護者が仲間に加わり、また本人の家族が花壇の手入れに協力くださっていて、「事業所と地域とのつきあい」の代表的な事例となっています。また利用者の皆さんも「荒子観音の盆踊りに行きたい」と地域行事への参加を自ら発信、職員が休日出勤、残業で願いを叶えています。	評価	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 地域包括支援センターや町内会、家族、職員、子ども会からは会長、副会長、会計の三役が顔を揃え、隔月開催がつつがなく続いていましたが、本年は中川区福祉課からの参加も得られ、より充実した集まりとなっています。主な内容は事業所の日頃の活動報告ですが、普段利用者が摂る食事の試食会を年1回おこなっており、体験型で理解を深めてもらう工夫もあります。	評価	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 当事業所には認知症介護指導者が2名いることから、認知症介護・研究研修センターとは実習の受入れやデータ収集における協力関係があります。また東部いきいき支援センター（地域包括支援センター）の依頼で『認知症サポーター養成講座』へ講師派遣をおこなうほか、4回ほど開催される『中川区若年性認知症講座』を手伝う等、行政関連の事業に尽力しています。	評価	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 面会は多い人で週2～3回あり、概ね月1回以上は訪れてくださるため、管理者または主任が必ず日勤に入り会話が持てるようにしています。事業所通信の発行はありませんが常にLINEで情報交換ができていて、写メを送信することで視認してもらうことも叶っています。また利用者とは食卓を共に囲み、ソファで肩を並べて話を聴くという事が日常に溶け込み、要望をキャッチしやすい態勢にあります。	評価	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価	
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。		○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。		○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価			◎

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
総合評価	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○	◎